

令和6年度 第4回兵庫県環境審議会自然環境部会 会議録

日 時 令和6年7月25日(木)
午後 1時30分開会
午後 3時00分閉会

場 所 兵庫県民会館 303 号室

議 題 議事 「生物多様性ひょうご戦略」の改定について

出席者	会 長	中瀬 勲			
	部 会 長	高橋 晃			
	委 員	竹尾 ともえ	委 員	谷口 日出二	
	委 員	角田 昌二郎	委 員	三橋 弘宗	
	委 員	與語 信也	特別委員	突々 淳	
	特別委員	山田 裕司			

欠 席 者 委 員 太田 英利 委 員 辻 三奈

説明のために出席した者の職氏名

環 境 部 長	菅 範昭	環境部次長	近藤 巧
自然鳥獣共生課長	森田 直子	自然鳥獣共生課副課長	永田 育子
その他関係職員			

会議の概要

(突々委員)

素案の 10 ページについて、農林水産マップが掲載されているが、書き込みすぎで見づらくなっており、また、全国何位などの表示もあるが、何年度の順位なのかわからないため、別の記載とするなど検討してほしい。また、素案 17 ページの沿岸の環境の変化について、他のページのグラフなどは、2022 年や 2023 年のものとなっているのに対し、窒素濃度の図は 1999 年度と 2019 年度のもので、5 年前の図は少し古いように感じる。

基本戦略 3 の中で、海に対する理解をしてもらうための一般県民向けの漁業体験について記載してほしい。

(山田委員)

素案の 5 から 8 ページで兵庫の豊かな自然環境について記載されているが、森林に関する記載がない。兵庫県の民有林面積は、全国 8 位の規模であり、森林は生物多様性を支える大切な生態系なので是非入れてほしい。また、10 ページの農林水産マップについて、実栗の木材の記載がないため、追加等検討してほしい。

60 ページの新兵庫の森づくりに参画している企業は 50 社を超えており、企業が直接森づくりをしているということでアピールできるのではと思う。また、ブルーカーボンの話は出てくるが、J クレジットに関することが記載されていないため、どこかに盛り込んでほしい。

(中瀬会長)

第2章の兵庫における生物多様性の地図に、兵庫県の自然環境を一目で想像できるように川や山のイラストを入れてほしい。また、11ページの淡路地域の玉ねぎ栽培に関するコラムに「つるし玉ねぎ」というキーワードを入れるほか、淡路地域は二毛作ではなく、三毛作（野菜・玉ねぎ・米）だと思うので確認してほしい。

また、日本農業遺産に関するコラムを入れているが、「丹波篠山の黒大豆栽培」についても記載してほしい。灰屋（はんや）を利用した資源循環など、素晴らしいシステムが構築されているおり、また、3箇所も日本農業遺産の指定を受けていることは誇れることだと思うため、アピールしてほしい。

35ページのシカの食害について、森林の下層植生に関するものだけではなく、草原植生の食害についても記載してほしい。国内で草原植生の食害に言及している計画などはあまり見たことがない。また、54ページの自然学校の推進については、3泊4日も山の中で子どもたちが生活をするという取組は全国的にも類を見ない取組であり、もう少し記載を充実してもよいのではと思う。

(三橋委員)

コラムでハチ北の希少植物の保護や、特定外来生物クビアカツヤカミキリのネット巻きの取組など、実際に県内で対策を頑張っている人の活動が見えるようなればいい。「外来種は悪ではない」というコラムでは、他県でも使える資料になってしまっている。ジャンボタニシも熱心に防除に取り組んでいる人や全県講習会の開催など、兵庫県しか使えない資料にしたほうがよい。

また、ノリに関しても、脱炭素に繋がるかは課題があると考えている。記載内容について、生物多様性に真に貢献する内容かを精査して、この取組はこのように生物多様性に貢献しているという記載にした方がいい。

基本戦略2のほとんどの推進施策は、農林行政の説明になってしまっている。この戦略を見る人は、どのような取組が、生物多様性にどう寄与しているか見たいわけで、例えば、46ページのヘアリーベッチを活用した有機農業技術の指導が生物多様性にどう関係しているかが見えず、生物多様性にこのように貢献しているという説明はいると思う。

また、生物多様性で一番取組まなければいけないことは、藻場の造成である。海底こう運は、一定の効果があるとのエビデンスがあるが、有機肥料を海底に入れることについては疑義があり、あえて書かなくてもよいと思う。マナマコやクマエビの放流についても、放流をしてどのような効果があるかということのコラムでも書いた方がよい。

円山川の自然再生は、全国的にも防災と環境の両立ということで日本の代表的な事例であり、防災と環境が兵庫県の売りだとアピールできる記述にしてはどうか。

戦略では、ワークショップをして話し合ったことを発信するというのではなく、体験とできる化を進めていくべきである。県内に広がりつつあるクビアカツヤカミキリの対策など、少しでも県民の誰かが取り組んでくれると防除が進んでいく。推進施策にできる化に繋がる内容の記載があれば、次の戦略の改定時のフィードバックと担い手の育成に繋がる。

なお、指標については、環境基本計画に合わせて全体の整理がいると思う。指標は精査してこれを見たら生物多様性が進んでいるということが誰でも分かるというものを設定すべきと思う。

(中瀬会長)

例として、14ページの兵庫の主な生物の哺乳類の項目で、クマに関する文書につ

いて、よくまとめられているかもしれないが、あまり理解できない内容になってしまっている。全体的に、説明すべきところはしっかり説明をして、あまり重要そうでないものについては、思い切って省いて簡潔にすると読みやすいものになる。

(突々委員)

生物多様性の戦略に漁業の持続性のことだけが書かれていても違和感がある。農林水産業は生産性がないと成り立たないことなので、趣旨に生物多様性と生産性のことをどこまで論じるのか、定義をはっきりさせておいた方がいい。

(高橋委員)

生物多様性を維持していくとなると生産性と相反することもある。いかにうまく両立しながら持続的に取り組んでいるかの成功事例を取り上げて紹介すると、見る人にとっても有益なものになる。

(中瀬会長)

林業や農業などについては、現場にどう繋ぐのか、取組が生物多様性にどう活かされるのかをしっかりと記載しないといけない。

(突々委員)

県民がこの戦略を読んで私たちは何をしたらいいのかとなってしまうと思う。県民にとって生物多様性ひょうご戦略というものは何なのかというところをもう少しはっきり定義した方がいい。

(山田委員)

林業は、農林水産業と横並びで語られることが多いが、公益性が重視されている仕事である。森林の多面的機能の中には、生物多様性に繋がっていることがあると考えており、林業の施策はそのまま載せてもらったらいと思う。

また、各市町の取組として、豊岡市では貴重種保護のため、ノアの方舟作戦というものを約10年前から取り組んでおり、市内約10箇所にネットを設置するなどしている。この取組は、シカの食害がまだ少なかった時期から実施されており、先進的な取組だと思っているので、是非コラムに入れてほしい。コラムには、行政がやっている大々的なものより、個人やボランティア団体など民間がやっている環境保全活動を掲載した方がいいと考える。

(三橋委員)

水産業関係で、イカナゴ魚のように資源を守るため、数日で漁をやめるなどの厳しい規制に取り組んでいるといった内容が記載されているとよくなってくると思う。また、淡路では魚礁を整備したり、竹でアオリイカの生息場を作ったり、藻場の造成をしている。これらは、水産行政の中で取り組まれており、そういうものは生物多様性にも直結するし、生産性も上がるため、そういった事例を入れた方がいいのではと思う。兵庫運河などでも干潟を作った結果、魚と水質が劇的に回復している。

(高橋部会長)

生物多様性に関する戦略は、国や県などが大きなところがまとめていくと、推進していくために概念に留まってしまうものができてしまい、結果として地域でありがたみを感じないものができてしまう。そういうところを改善して兵庫県らしい戦

略を作っていけばいいと思う。

(三橋委員)

北摂里山循環共生圏は一般の人には伝わりづらい。40ページの図はよく見る図だが、実際どういうことに繋がっているのかが見えない。載せるのであれば、何が特徴であるか、何が成功しているのかを見えるようにした方がいい。

(突々委員)

ブルーカーボン自体が悪いわけではなく、最終的にノリの養殖に関する記載になっ
てしまっていることに少し違和感を感じてしまう。

栄養塩類の不足から生じている海の底生の有機物の少なさというのは、生物多様性の面からも生産性の面からも良くない状況だということは明らかであると思う。一つ一つの取組は全て重要なことであるため、戦略に掲載する取組は、個別に生物多様性の話か農林水産業の話か精査して記載していけばいい。

(高橋委員)

今回の会の意見をまとめるのは非常に難しいかもしれないが、戦略とはなんのかという核心に迫る意見が非常に多く出たと感じた。